

地域研究年報

Annals of Human and Regional Geography

31
2009

手塚 章・呉羽正昭・仁平尊明・兼子 純
序

花島裕樹・西田あゆみ・呉羽正昭
黒姫高原におけるスキーリゾートの変容

市川康夫・市村卓司・村田 裕・仁平尊明
長野県中野市における果樹園芸の地域的特色

亀川星二・工藤宏子・兼子 純
須坂市中心市街地における商業機能の変容

永村恭介・マテオ=ジスモンディ
長野市における斜面災害の防災
-西部山地の地区を事例として-

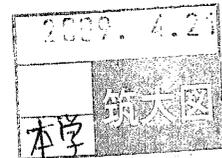
金 玉実
地方におけるインバウンド観光の進展
-長野県を事例に-

橋本 暁子
長野市における剪定枝・まきストープ活用推進事業の展開と課題
-農家と市民の持続的な関係に向けて-

横山貴史
野尻湖におけるブラックバスフィッシングの導入とその地域的意義

大石貴之
千曲市森地区におけるアズノの栽培と販売の特色

中村文宣
観光資源としての「戸隠そば」の発展過程と地域的基盤



筑波大学人文地理学・地誌学研究会

Association of Human and Regional Geography, University of Tsukuba

地域研究年報

Annals of Human and Regional Geography

第31号

2009年 2月

筑波大学人文地理学・地誌学研究会

Association of Human and Regional Geography, University of Tsukuba

序

地域研究年報第31号は、2007年9月23日（日）から29日（土）、および2008年6月1日（日）から7日（土）にかけて実施した筑波大学大学院地誌学野外実験の研究成果を特集したものである。この野外実験には、教員4名と筑波大学地球環境科学専攻の大学院生16名（2007年）、19名（2008年）が参加した。長野駅近くの宿泊施設を拠点に、長野盆地内の複数の地域でさまざまなテーマに関して調査を実施した。さらに夕食後のゼミでは、調査結果の報告・まとめ方に関して熱心な議論が深夜まで続いた。本号に収録された論文はこうした調査成果の一部であり、これ以外にも多くの大学院生が、今回の調査結果を基礎として学会誌への投稿論文を準備している。

地誌学野外実験は、これまで何度か長野県内の盆地地域を対象として実施された。松本盆地が3回（『地域調査報告』7, 17, 23号）、長野盆地および上田盆地が1回（同25号）、諏訪盆地が1回（『地域研究年報』27号）である。2001・2002年には、長野盆地および上田盆地を対象としたが、その2年目に菅平高原に滞在したため、そこでの調査に重点が置かれた。そのため今回の調査は、本格的に長野盆地を対象とした最初のものである。

長野盆地は、南西から北東方向に伸びる細長い盆地である。その中心を千曲川が流れており、沖積平野が展開する。この低地は、北信五岳に代表されるような、標高2,000m以上の高い山地で囲まれている。さらに、わずかな平野と広大な山地の間には、多くの扇状地が存在する。長野盆地の特徴は、この扇状地の存在によってつくられてきたといっても過言ではないであろう。乏水性の扇状地上では、近世期には畑作が盛んであったが、幕末から桑作へと転換された。養蚕が盛んになると、都市の規模拡大がみられるようになった。養蚕が衰退すると、扇状地の土地利用は果樹がそのほとんどを占めるようになった。しかし、最近約50年間、扇状地や沖積平野の土地利用は多様化している。その典型例は都市構造であろう。長野市では1998年に冬季五輪が開催され、それに併せて多くのインフラ整備がなされ、その中心性が維持されている。しかし、小都市である中野市や須坂市などでは、商業機能の衰退が顕著である。果樹についても、加温施設、品種の変更など土地利用の変化がみられる。一方、扇状地の外側に位置する山地では、犀川丘陵のように過疎化が深刻な地域も出現し、今日では防災が主な問題の一つである。逆に北部の山地では、高度経済成長期頃から観光開発が急速に進行した。さらに、外国人の訪問や日本人の観光行動の多様化がみられる現在、さまざまな変化が現れつつある。

本特集号は、これらの諸側面からみた長野盆地の地域性を明らかにしようとしたものである。この成果が、長野盆地の人々にとって何らかの役に立つことができれば、地域研究の一端をになうものとして望外の幸せである。

現地調査に際しては、長野県庁、長野市役所、須坂市役所、中野市役所などの関係部署をはじめとして、数多くの関係機関の方々に貴重なご意見をいただき、資料の提供や閲覧の便宜をはかっていただいた。また、聞き取り調査やアンケート調査のために訪れた事業所や農家、商店、宿泊施設でも、親切に対応していただいた。記して厚くお礼申し上げる次第である。

2009年2月

手塚 章・呉羽正昭・仁平尊明・兼子 純

目 次

序	手塚 章 呉羽 正昭 仁平 尊明 兼子 純	
黒姫高原におけるスキーリゾートの変容	花島 裕樹 1 西田あゆみ 呉羽 正昭	
長野県中野市における果樹園芸の地域的特色	市川 康夫 21 市村 卓司 村田 裕 仁平 尊明	
須坂市中心市街地における商業機能の変容	亀川 星二 45 工藤 宏子 兼子 純	
長野市における斜面災害の防災 - 西部山地の地区を事例として -	永村 恭介 63 マテオ = ジスモンディ	
地方におけるインバウンド観光の進展 - 長野県を事例に -	金 玉実 77	
長野市における剪定枝・まきストーブ活用推進事業の展開と課題 - 農家と市民の持続的な関係に向けて -	橋本 暁子 87	
野尻湖におけるブラックバスフィッシングの導入と その地域的意義	横山 貴史 99	
千曲市森地区におけるアングの栽培と販売の特色	大石 貴之 111	
観光資源としての「戸隠そば」の発展過程と地域的基盤	中村 文宣 127	